



TITLE:

性別年齢別失業統計

AUTHOR(S):

岡崎, 文規

CITATION:

岡崎, 文規. 性別年齢別失業統計. 経済論叢 1923, 16(3): 576-581

ISSUE DATE:

1923-03-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127998>

RIGHT:

東京帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 三 號 第 十 六 卷

大正二十三年三月一日發行

論 叢

サン・シ
モン派の社會改造哲學及び連帶思想

文學博士 米田庄太郎

加特力教の社會論者に就て

法學博士 田島 錦治

階級に就いて

文學博士 高田 保馬

基督教文明の發展概論

法學博士 財部 靜治

時 論

地 租 論

法學博士 小川郷太郎

小作調停法案に就て

法學博士 河田 嗣郎

說 苑

舊岡山藩の社倉法に就て

經濟學士 黒 正 巖

雜 錄

米國研究の必要

法學士 本庄榮治郎

性別年齢別失業統計

經濟學士 岡崎 文規

アダム・スミス生誕二百年

法學士 本庄榮治郎

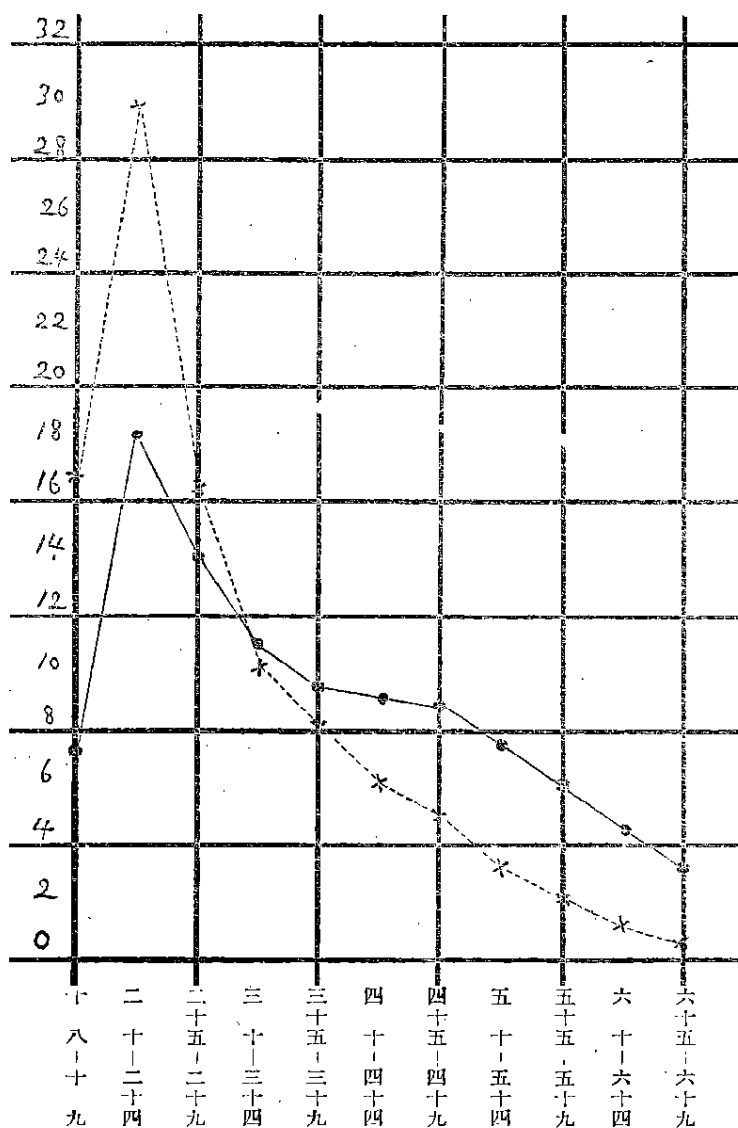
性別年齡別失業統計

岡崎文規

最近 F. Morley が *Economic Journal* (December, '22) 誌上に於て、*The Incidence of Unemployment by Age and Sex* なる論題で、失業の性別年齢別による精細なる統計的研究を發表してゐる。從來、失業の年齢別による科學的研究は絶えてなく、不景氣が長引くと失業の災禍は先づ年少者と老年者の頭上に降りかゝつて來るだらうと云ふ極めて常識的な推斷で満足して來たのである。殊に失業の性別研究などは殆んど全く考へられもしなかつたのである。私

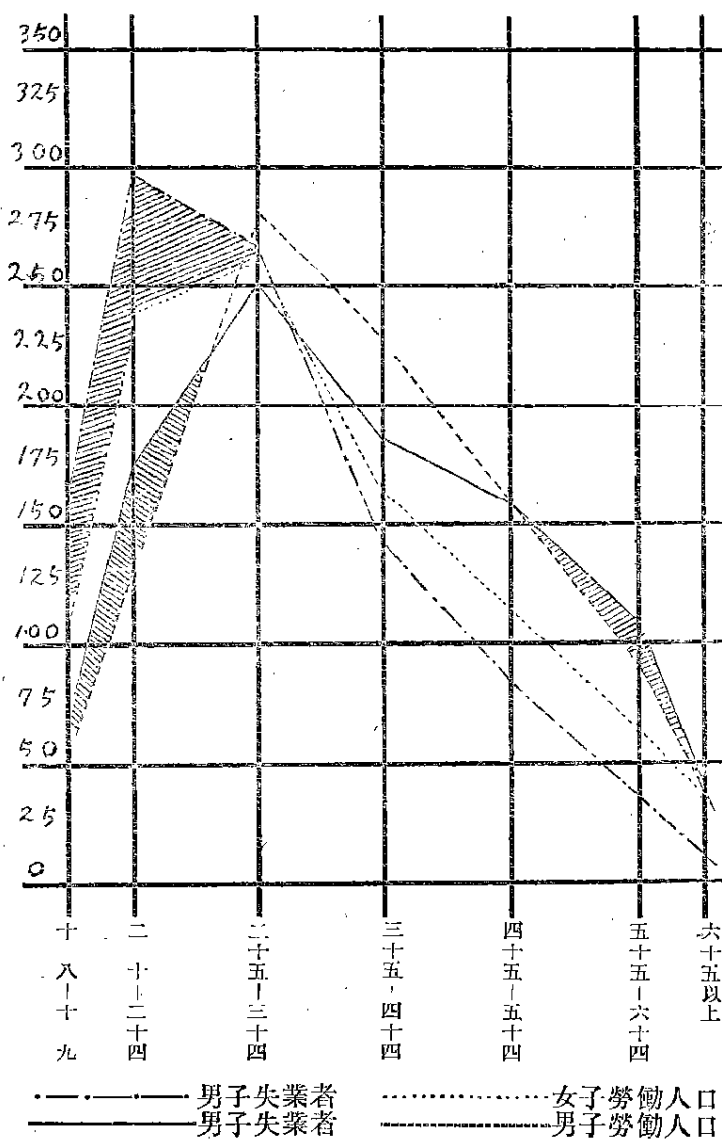
第一表 性別年齡別失業統計 (千二百二十二年二月七日)

年 齡	合 計	男 子	女 子
六十一	六十一	六十一	六十一
六十	六十	六十	六十
五十九	五十九	五十九	五十九
五十八	五十八	五十八	五十八
五十七	五十七	五十七	五十七
五十六	五十六	五十六	五十六
五十五	五十五	五十五	五十五
五十四	五十四	五十四	五十四
五十三	五十三	五十三	五十三
五十二	五十二	五十二	五十二
五十一	五十一	五十一	五十一
五十	五十	五十	五十
四十九	四十九	四十九	四十九
四十八	四十八	四十八	四十八
四十七	四十七	四十七	四十七
四十六	四十六	四十六	四十六
四十五	四十五	四十五	四十五
四十四	四十四	四十四	四十四
四十三	四十三	四十三	四十三
四十二	四十二	四十二	四十二
四十一	四十一	四十一	四十一
四十	四十	四十	四十
三十九	三十九	三十九	三十九
三十八	三十八	三十八	三十八
三十七	三十七	三十七	三十七
三十六	三十六	三十六	三十六
三十五	三十五	三十五	三十五
三十四	三十四	三十四	三十四
三十三	三十三	三十三	三十三
三十二	三十二	三十二	三十二
三十一	三十一	三十一	三十一
三十	三十	三十	三十
二十九	二十九	二十九	二十九
二十八	二十八	二十八	二十八
二十七	二十七	二十七	二十七
二十六	二十六	二十六	二十六
二十五	二十五	二十五	二十五
二十四	二十四	二十四	二十四
二十三	二十三	二十三	二十三
二十二	二十二	二十二	二十二
二十一	二十一	二十一	二十一
二十	二十	二十	二十
十九	十九	十九	十九
十八	十八	十八	十八
十七	十七	十七	十七
十六	十六	十六	十六
十五	十五	十五	十五
十四	十四	十四	十四
十三	十三	十三	十三
十二	十二	十二	十二
十一	十一	十一	十一
十	十	十	十
九	九	九	九
八	八	八	八
七	七	七	七
六	六	六	六
五	五	五	五
四	四	四	四
三	三	三	三
二	二	二	二
一	一	一	一
合計	合計	合計	合計



-----女子失業者

——男子失業者



配偶状態による失業率を見ると、有配偶者は若き年齢級に於て失業率が高い。即ち有婦の夫の場合には、二十一—二十四の年齢級に於ける失業率(六七)は労働人口の比率(三六)の約二倍である。有夫の婦の場合には、同年齡級の失業率(二六八)は労働人口の比率(五二)の三倍以上に達してゐる。獨身者の場合には、これ等の關係が有配偶者の場合は著しくはない。又、之を性別のみより見る時は、男子の失業率は女子の失業率よりも高い。即ち左の如し。

	男子	女子	合計
被保險者	七・二%	三・八%	一〇・〇%
補助金要求者	八・三%	一・七%	一〇・〇%

右の第二圖表は性別年齢別による失業分布及び労働人口分布を示すものである。陰影のある部分は失業率の労働人口の比率に對するプラスの偏差を明らかにしたものである。

以上論ずる所を要約すれば、

一、失業危険は年齢級を異にするに従つて異動がある。

二、同年齡級に於ても、男女の性を異にする

に従つて、失業危険に異動がある。

三、男子に於ける失業の最高危険率は最若年齢級、最高年齢級に於てではなく、二十五六歳に於て之を見る。

四、女子に於ける失業の最高危険率は二十一—三十に於て之を見る。

五、全年齡を通じて之を観察する時は、女子よりも男子に於て失業率高し。